

## 手織ミュージアム織成館

[北野-西陣]

現在西陣と呼ばれる地区での織物生産は、少なくとも平安時代（794-1185）まで遡ります。16世紀からは、西陣という地名は高品質の織物作りの職人芸の代名詞的存在になっています。

伝統的な織屋建手の商家を改装した手織ミュージアム織成館では、来館者は西陣織の豊かな歴史と着物文化一般について学ぶことができます。収蔵品には日本各地から集められた織物が含まれ、伝統的な織物が約400点展示されています。その中には、江戸時代（1603-1867）後期から20世紀後半までに作られた着物や帯もあります。また、伝統的な技法で織られた古い能の衣装のレプリカも展示されています。

2階には工房があり、職人が手織りで絹織物を制作しています。完成までには数ヶ月を要するものもあります。伝統的な機織り機の使い方を見ることができるツアーも実施されています。事前に予約した来館者は、自身の手で織物体験をすることもできます。